

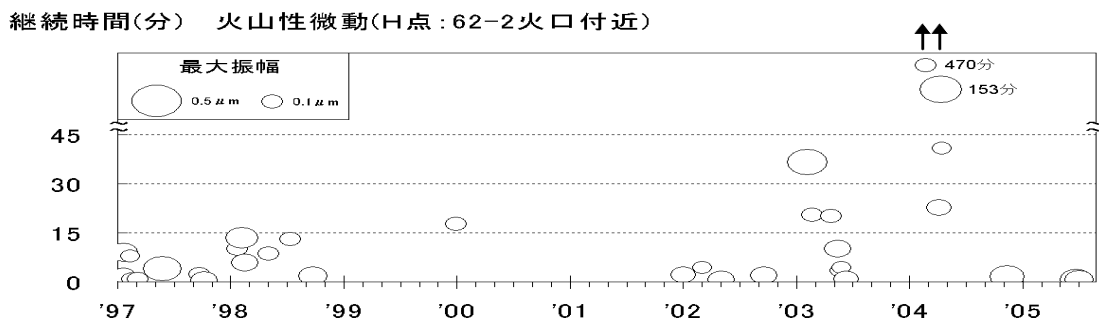
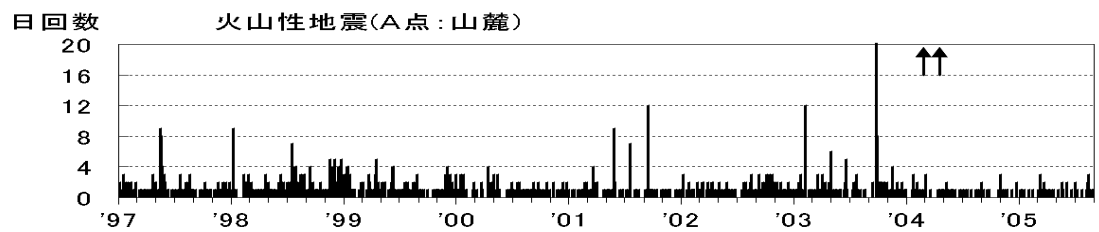
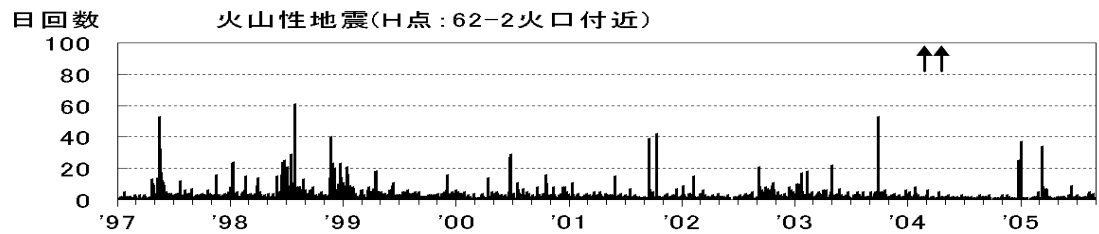
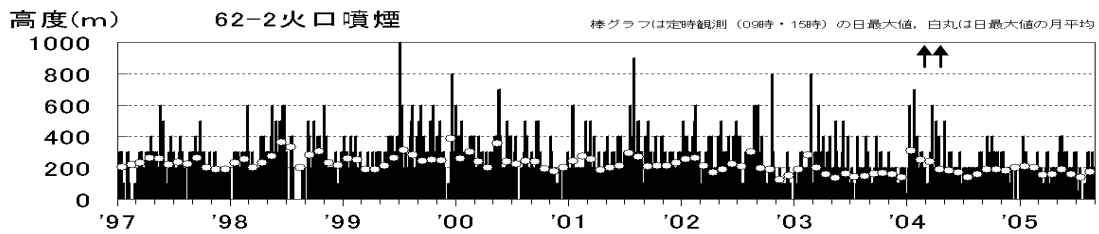
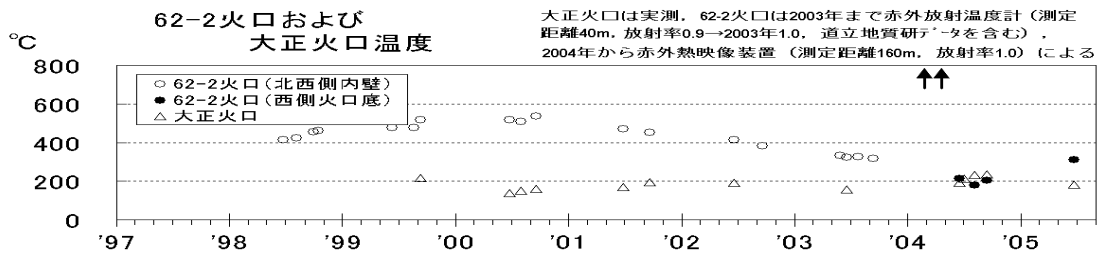
十勝岳

1 概況

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いていると推定されます。
 十勝岳の火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 200 mで経過しました。



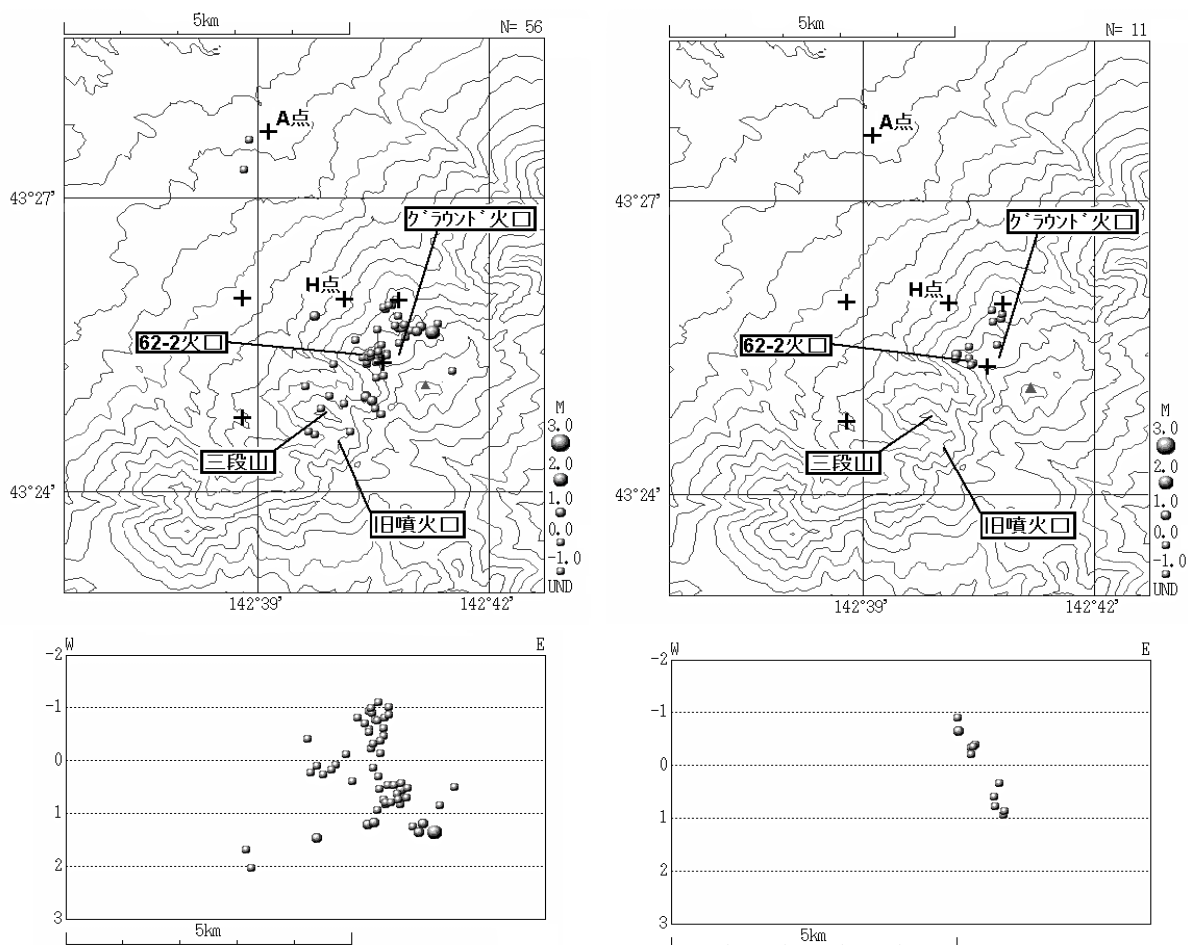
最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2005年8月31日) 印はごく小規模な噴火

3 地震および微動の発生状況

今期間の火山性地震の回数は 1 日あたり 0～5 回と、平常レベルで経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数（H点：火口付近の観測点 A点：山麓の観測点）

2004～2005年	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
地震回数H点	16	11	20	30	60	20	86	14	14	26	17	41
地震回数A点	3	3	7	4	4	2	11	4	5	3	4	13
微動回数H点	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0



十勝岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

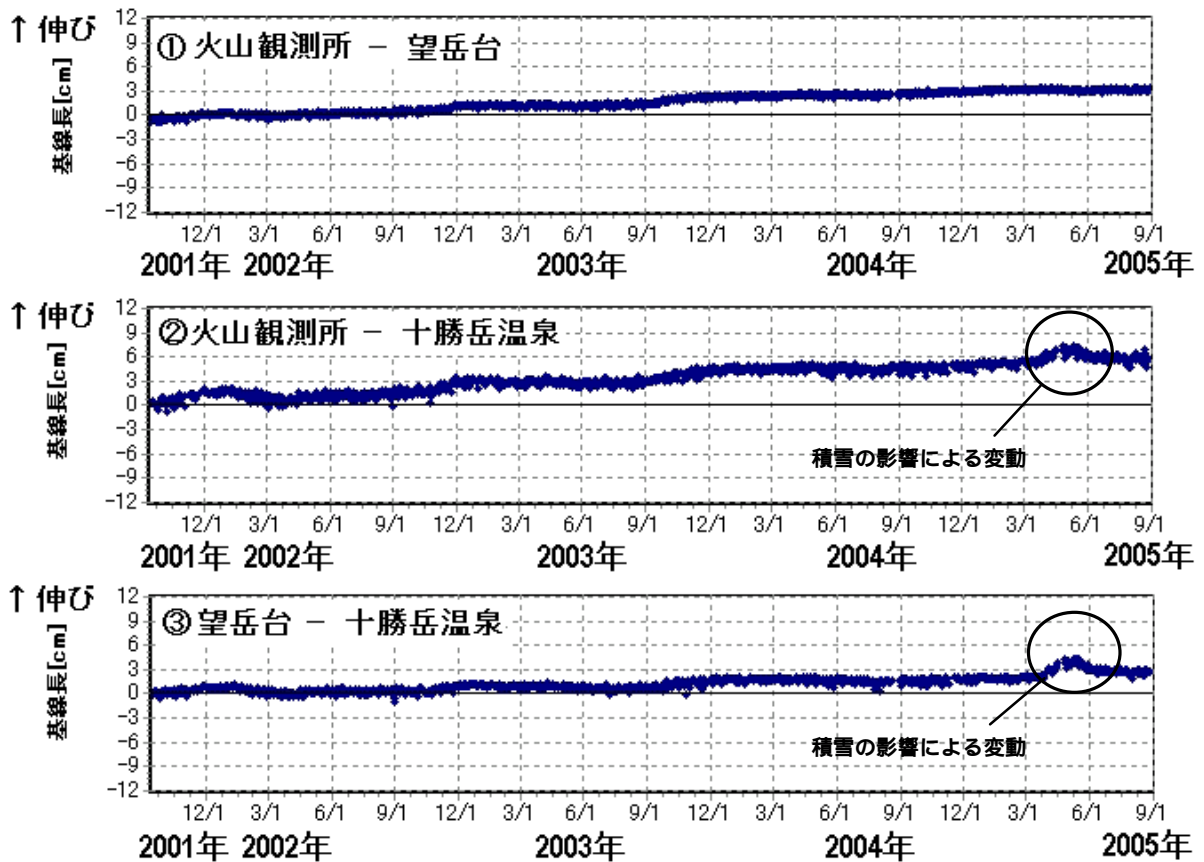
右図は今期間（2005年8月1日～31日）に求まった震源を示しています。

左図は前期間までの11ヶ月間（2004年9月1日～2005年7月31日）に求まった震源を示しています。

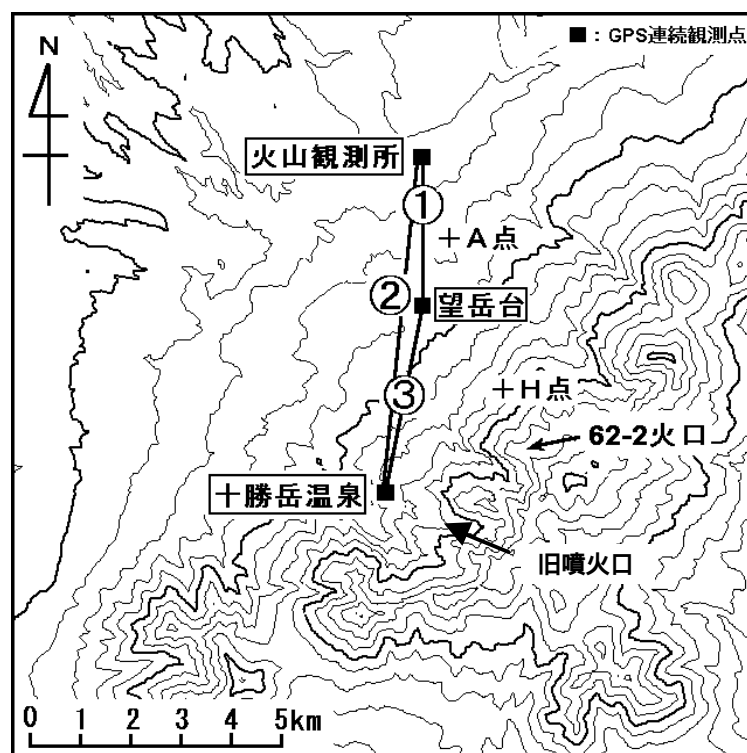
震源はクラウド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅部（海面上1km～海面下1km程度）に集中しています。今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年9月13日~2005年8月31日)

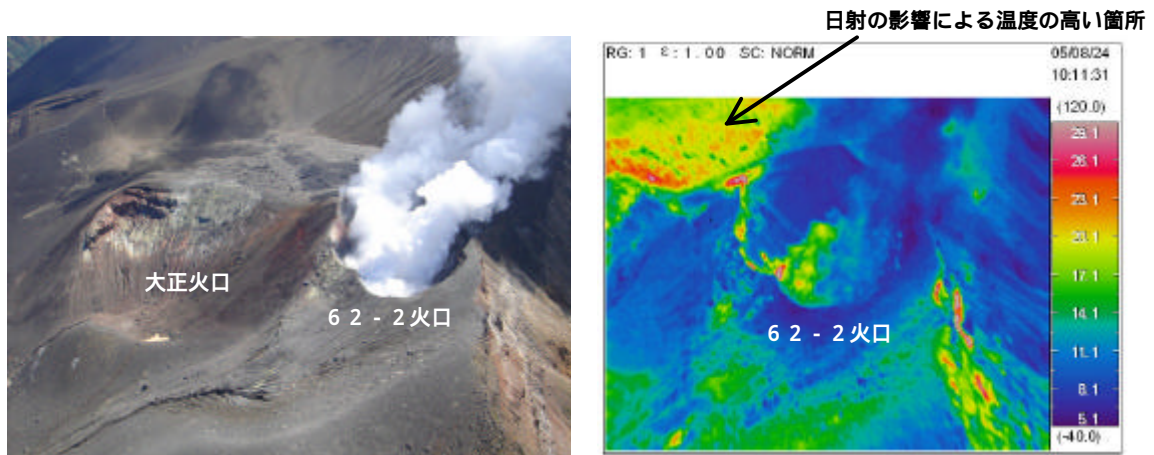


5 上空からの観測結果

8月24日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測で、62-2火口、大正火口、旧噴火口などの状況は、これまでと比べ特に変化は見られませんでした。

62-2火口では火口全体から白色の噴煙が100mほどの高さまで噴出していました。

62-2火口内の状況は噴煙のため確認できませんでしたが、赤外熱映像装置*による観測で活発な噴気孔に対応した高温域が認められました。



左：西側上空から撮影した62-2火口と大正火口

右：西側上空から赤外熱映像装置により測定した火口周辺の表面温度分布



西側上空から撮影した旧噴火口

- *：赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。